

地域おこし協力隊通信 (No. 9) 種子島の神々しさ

移住して2か月になろうとしています。陽の光が夏に向かつて存在感を増し、役場に行く途中の景色がようやく輝いていることに気付きました。都会に揉まれて、ほじめてたガーゼのようになった私には神々しくすら感じるのです。

そんなある日、図書館で何気に手に取った本、「種子島は古代神々の故郷(益田宗児著)」に引き込まれました。私なりに興味を持った一部をあげてみます。

豊満神社、浦田神社の縁起書には、「すめらぎ(天皇)の御父の通う島なれど人のはじめの島にぞありける」とあるそうです。天皇の御父とはどなたなのか私にはわかりませんが、人のはじめの島とは、立切遺跡から約3万1千年前、日本最古の生活跡が発見されていることから日本人の発祥という意味で符合するのではないのでしょうか。

さらに、この書物では、宝満神社の御祭神がタマヨリヒメノミコト(神武天皇の母)、浦田神社の御祭神はウガヤフキアエズノミコト(神武天皇の父)、宇都浦神社はトヨタマヒメノミコト(神武天皇の祖母)で、ここから著者は「種子島は神武天

皇のふるさと」と書いています。ここで、町の神社の御祭神を調べてみました。霧島神社の御祭神はヒコホホニニギノミコト。浜津脇神社と熊野神社はイザナギノミコト、イザナミノミコト。納官神社がアマテラスオオミカミ、トヨウケヒメノカミと、日本神話のレジエンド級の方々です。

「なにごとのおはしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼるる」西行法師が伊勢神宮にお参りした時に詠んだ和歌といわれています。その存在は分らないが良い波動が伝わり心洗われる、ということを書いてあるのではないのでしょうか？幼い頃、よく祖母に言われました。「誰も見ていないと思つて悪さしなや、八百万の神様は見えてはるで」見えないものの畏怖畏敬を私は祖母から教わりました。

ここ種子島は、古代の神々や始まりの人々の息吹、山や海など大自然の命、そういったものがひとまとまりになって、なんだかわからないが、ある種のゆらぎを発生させているのだと思います。それが私にとつての種子島の神々しさを感じる所以ではないのでしょうか。

(山村)

新茶の香り漂う

熊毛地区製茶共進会

今年が一番茶の審査会が5月16日、JA種子屋久西之表支所で開かれ、熊毛地区内から「やぶきた」など6品種計64点(本町からは4点)が出品されました。審査会では、茶葉の外観、お茶を入れた時の香り、色、味の4項目が審査され、その様子を生産者や関係者が熱心に見つめていました。本町からは、藤和典さん(伏之前)の「やぶきた」が3等に入賞しました。



審査会

種子島の魅力をPR

フレッシュ種子島認定証授与式



左から上妻桃子さん、野角菜那さん

フレッシュ種子島の認定証授与式が、5月12日ホテルニュー種子島であり、野角菜那さん(原之里)と、上妻桃子さん(西之表市)に、種子島観光協会から認定証が授与されました。

授与式に際し2人は「種子島を盛り上げられるよう頑張りたい」と就任への決意を述べました。

2人はこれから2年間、種子島の魅力を島内外でPRする活動に務めます。